祭祀に使われる植物

クバ

ビロウ

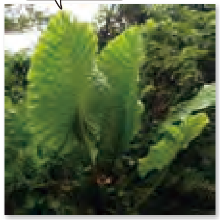
常緑高木。御嶽に植えられている。祭祀で腰にまく。葉で扇子や蓑、クバ笠、釣瓶、縄などを作った。花の茎は子どものおやつ。

マーニ

クロツグ

常緑低木。祭祀のときに葉を編んで頭や腰に巻く。細く鋭い葉が魔除けの意味を持つ。根本の黒い繊維は縄やカゴに利用された。

ビヴガッサ



クワズイモ

常緑多年草。葉に供物をのせたり、供物を包む。汁は触るとかぶれるが、止血剤や破傷風の予防薬にされた。

ダティフ

ダンチク

多年生草本。秋に直立し高い穂を伸ばす。茎は中空で節がある。魔除けや、津波避けの祭祀ナーパイでも使われる。茅葺屋根の建材。

オキナワソケイ

常緑つる性木本。花期は夏から秋にかけて強い香りの白い花を咲かせる。祭祀のときに草冠にする。

キャーム

シイノキカズラ

常緑つる性木本。祭祀のときに頭や腰、体全体に巻くのに使われる。カゴなども作った。

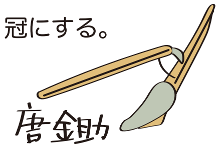
カラスキバサンキライ

常緑つる性木本。農具の唐鋤に葉が似ていることから名がつく。祭祀のときに草冠にする。

クーズ

トウツルモドキ

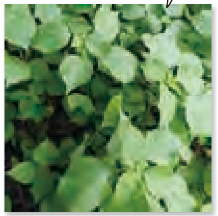
常緑つる性木本。ササやタケに似ている。つるでカゴや鍋蓋を作った。祭祀のときに草冠にする。



ブーとブーギ

宮古といえば宮古上布が有名です。1583年に稲石が琉球王府に献上したのが始まりとされ、260年にもおよぶ人頭税の時代は、上布を税として納めていました。糸の材料となる苧麻の栽培をはじめ、織物まで仕上げる全ての工程がひとつの島で完結しています。

ブー



カラムシ(苧麻)

多年生草本。皮を剥いで繊維をとった。家の敷地内で栽培したり、周辺に生えているものを採って使った。

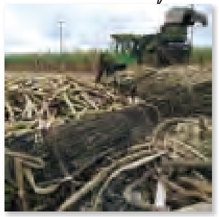
刈り取り

繊維を取り出し

糸にしていく

1881(明治14)年に宮古で初めてサトウキビが植え付けられ、1883年には黒糖が製造されました。人頭税が廃止されて自由に商売ができるようになった1903年以降、サトウキビの生産は増え、いまでは沖縄県の総生産量の40%をしめ、島の基幹産業となっています。

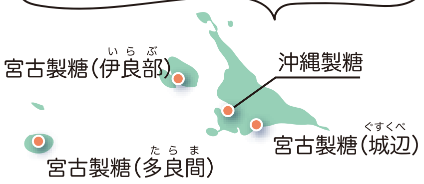
ブーギ



サトウキビ

イネ科の多年草。長さ6ｍ以上にもなる。茎の節から芽が出る。11月頃に穂が出ると糖度があがり、12～4月にかけて収穫・製糖される。

宮古諸島は４つも製糖工場がある！



牧山散策コース(森林・御嶽林)

宮古の固有種、希少種

『宮古島市史第三巻 自然編 第一部 みやこの自然別冊(2020)』によると、宮古諸島の在来種は680種とされています。2012～2017年にかけての調査・報告では、宮古諸島の絶滅を危惧される維管束植物89種のうち、３種は絶滅し、約４割は確認ができませんでした。

現在、宮古諸島だけに生育する固有植物は、ミヤコケリンドウの１種のみです。また、国内で宮古諸島だけにみられる植物は７種、宮古諸島を北限とする種は42種が確認されています。

宮古諸島でしか見られない植物（固有種）

ミヤコ コケリンドウ

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類環境省RL：絶滅危惧IA類

分布：宮古島、下地島

２年生草本。海水飛沫を浴びるような低い岩礁地に生え、草丈は３～５センチほど。個体数は少なく、宮古島と下地島の数か所のみで確認されている。ゴルフ場やホテルの建設など、海岸の開発が進んでおり、生育可能環境が減少しつつある。

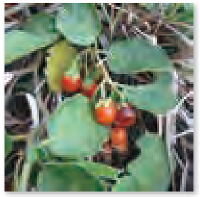
国内では宮古諸島だけに見られる植物

沖縄県RDB：絶滅危惧IB類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島保全種

分布：宮古島、伊良部島
国外分布：セレベス、ニューニギア

サキシマエノキ

落葉小高木。宮古島と伊良部島の４か所のみで生育を確認。宮古島の個体がコバノチョウセンエノキの変種として選定基準標本となった。



沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島市指定天然記念物

分布：宮古島、伊良部島、多良間島
国外分布：台湾

イラブナスビ

常緑小低木。海岸の岩場に這うようにして生える。伊良部島の２か所でごく少数確認。宮古諸島が基準産地であり、分布の北限。

沖縄県RDB：基本種・固有変種とも絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：該当なし

分布：伊良部島、多良間島
国外分布：台湾、フィリピン、中国

ケナシ ハテルマカズラ

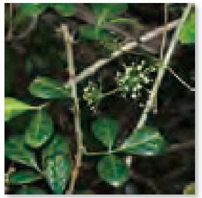
常緑つる性多年草。ハテルマカズラの変種。植物体に毛がない。伊良部島では近年確認できず多良間島の数か所のみ。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

分布：宮古島、伊良部島
国外分布：台湾

タイワン チトセカズラ

常緑つる性木本。宮古島２か所、伊良部島１か所で自生、個体数は少ない。公園管理の影響で個体数が減少。



沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：該当なし

分布：宮古島（日本新記録種）分布の北限
国外分布：台湾、フィリピン、中国

ミツバウコギ

常緑半つる性木本。長さ数mにもなる。枝と葉柄に逆さにトゲがある。確認されている自生地は宮古島で２か所、個体数は少数。

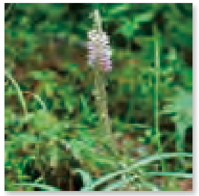
沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島市指定天然記念物

分布：宮古島、大神島
国外分布：台湾

ミヤコジマソウ

常緑ほふく性多年草。岩上や海岸林に生育する。自生地は宮古島と大神島の数か所。ポリネシア系の植物で、植物地理学上貴重。

絶滅危惧種



沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類
国内希少野生動植物
宮古島市保全種

ホソバ フジボグサ

常緑亜低木。2011年に宮古島で約30年ぶりに生育が確認された。宮古島で自生するのは１個体のみ。

沖縄県RDB:絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL:絶滅危惧IA類

リュウキュウ チシャノキ

常緑高木。西平安名崎付近に１個体のみ生育が確認。この種の北限が書き換えられた。

沖縄県RDB：絶滅危惧IA類
環境省RL：絶滅危惧IA類

トゲイボタ

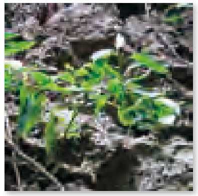
常緑ほふく性低木。沖縄県固有種で自生地と個体数が少ない。宮古は伊良部島でごく少数の個体が確認された。

沖縄県RDB：絶滅危惧IB類
環境省RL：絶滅危惧IA類
宮古島市保全種

エノキフジ

常緑小高木。林縁に生える。宮古島平良の２か所で少数個体が確認された。

宮古諸島を北限とする種

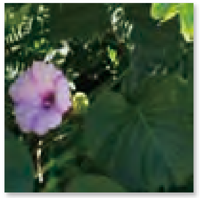


インド ヒモカズラ

沖縄県RDB：絶滅危惧ⅠB類
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

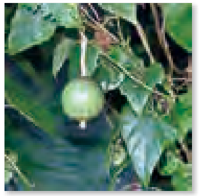
コウシュン ウマノスズクサ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：絶滅危惧Ⅱ類



オオバ ハマアサガオ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類



イシガキ カラスウリ

縄県RDB：準絶滅危惧
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

シマソケイ

沖縄県RDB：絶滅危惧ⅠB類
環境省RL：絶滅危惧ⅠA類

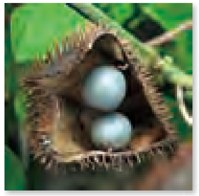
スナハマスゲ

沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：該当なし

リュウキュウ コマツナギ

リュウキュウ ガシワ

ハテルマギリ



シロツブ

沖縄県ＲＤＢ？？
環境省ＲＬ？？

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物の種のリストで、国際的には国際自然保護連合が作成しており、国内では環境省のほか、地方自治体やNGOなどが作成しています。

リストの見方（例）

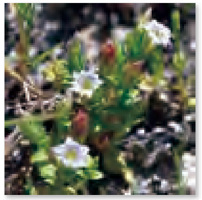
沖縄県RDB：絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL：絶滅危惧IA類

沖縄県ではまだ絶滅危惧ではないけれど、日本国内では絶滅の危機に瀕している種

絶滅		
野生絶滅	人が飼育（しいく）・栽培（さいばい）するものだけが生きている	
絶滅危惧ⅠA類	絶滅の危機に瀕している	絶滅が危ぶまれる種
絶滅危惧ⅠB類	絶滅の危険性が高い	
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危機が増えている	
準絶滅危惧	現時点（げんじてん）で絶滅の危険は小さいが可能性（かのうせい）がある	

“ミヤコ”とつく植物

宮古諸島でしか見られない植物（固有種）



ミヤコ コケリンドウ

国内では宮古諸島だけに見られる植物

ミヤコジマソウ

宮古諸島を北限とする種。先島諸島固有種

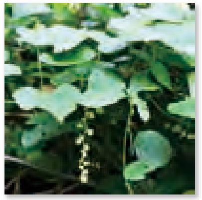
ミヤコジマ ツルマメ

沖縄県RDB：該当なし
環境省RD：絶滅危惧Ⅱ類

宮古島市指定天然記念物。宮古島市保全種

ミヤコジマ ハナワラビ

ミヤコジマ ハマアカザ



ミヤコジマ ツヅラフジ

ミヤコ ハママンネングサ

帰

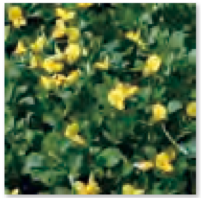
ミヤコジマ ニシキソウ

ミヤコジシバリ

ハマニガナとオオジシバリの雑種

海岸に生える
ハマニガナ

畑など内陸に
生えるオオジシバリ



ミヤコグサ

シロバナ ミヤコグサ

このミヤコは“都”なので宮古とは関係ない。

人里、耕作地、草地の植物

屋敷林として

プクイギー

フクギ

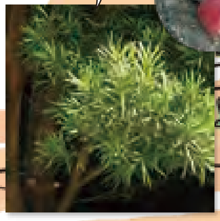
常緑高木。成長が遅いが材質が硬く葉が密になるため、屋敷林として植えられる。潮にも強いため家の柱などに使われた。樹皮は染料になる。

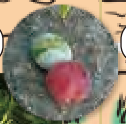
フフゥキ

リュウキュウコクタン

常緑小高木。樹皮が黒く材質が緻密なことから最高級の三線の棹や、建材に使われる。庭木としても利用される。

キャーギギー



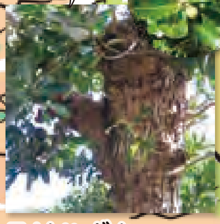


イヌマキ

常緑高木。沖縄に自生し、病害虫に強く建材として重宝。水に強いため、屋外の柱などにも利用された。果実の赤い部分は食べられる。

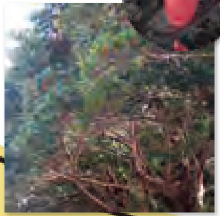
公園や街路樹、防風林として

ヤラヴギー



テリハボク

常緑高木。馬小屋や畑小屋の建材、農機具や豆うち棒など幅広く使われた。果実は乾燥させると長時間燃えるので、ランプ代わりにした。



ホルトノキ

常緑高木。古い葉は赤く紅葉するので、一年を通して緑の中に赤がちらほら混じって見られる。

人里、耕作地、草地の環境

宮古の島々は大部分を耕作地が占めています。開けた環境は森林の中と異なり、日当たりがよく、光合成がしやすい一方、強い日差しと風が通る比較的乾燥した環境でもあります。また、根や茎を伸ばして葉を広げても、踏まれたり刈り取られたり引っこ抜かれたりと、植物にとっては育つのが難しい場所です。そういった難しい環境にうまく適応する植物は、一番最初に生えることから先駆植物と言われ、成長が早く、根や種さえ残っていれば芽が出てきます。人里や耕作地などの植物は、防風林や観賞用、栽培などで植栽される植物も多くあり、人によって持ち込まれた外来種がよく見られます。

開けた土地に生える草木

ヤツヴサ

ヨモギ

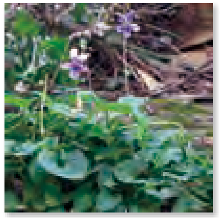
多年生草本。山羊汁などの臭い消し、お茶や刺身のつま、もち、天ぷらにして食べる。お灸や熱冷まし、鎮痛剤、血圧降下剤としても使用。

ムトゥビ

ナワシロイチゴ

常緑ほふく性低木。野生のキイチゴのひとつ。美味しいので昔から食べられていた。味は酸味が強め。

果実



リュウキュウコスミレ

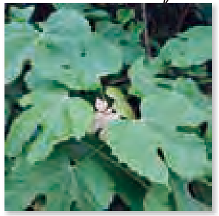
多年生草本。花の色が淡い紫〜濃い紫と変化が大きい。白い花が咲く個体はシロバナリュウキュウコスミレと呼ばれる。

ウプバーギー

オオバギ

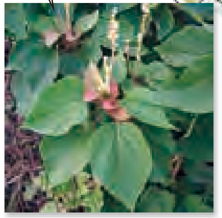
常緑小高木。開けた土地に育ち、大きな丸い葉はおにぎりを包んだり、皿代わり、トイレットペーパー代わりにした。家畜のエサ。

ミーツムヌギー



ヤンバル アカメガシワ

落葉小高木。葉裏の粉が目に入るから「ミーツムヌギー（ゴミが目を刺す木）」。家畜のエサ。



アカメガシワ

半落葉小高木。新芽が赤いことが名の由来。日当たりのよい林縁に生える。ヤンバルアカメガシワと用途が似る。

サフナ

ボタンボウフウ

多年生草本。長命草とも呼ばれる。魔除けとして利用。防腐剤代わりに食べ物の上に添えたりもする。胃腸薬として使われる。

ムニンキケマン

２年生草本。人家の脇や草地に生え軟質で水っぽい。独特な臭いの葉は風邪薬や熱さましとして利用された。

シマキケマン

２年生草本。ムニンキケマンより花の色が薄く、全体的に小ぶり。

方言がたくさんある

ムニンキケマン

35種類の方言があり、どれもとても長い！

- 犬のおしっこにおいのする草 インヌユシバイムフサ（狩俣）
- やりくりじょうずな人 クーシャガマ（宮国）
- 鳥のとさかに似た木 トゥリガマギー（佐和田長浜）
- 馬のおしっこのにおいのする草 ヌーマヌスバイウサ（佐良浜）
- 魔物(おばけ)の草 マズムヌダフッナ（保良）
- おばあのおしっこのにおいのする草 ムマガユッパイフゥサリフゥサ（新里）
- 八重山(石垣)のおばあのしっこのにおいのする草 ヤーマガムマガユスパイフゥサ（西中）
- 八重山のおじいの ヤーマヌウプウヤカ
- おしっこのにおいのする草 ユッパイフファリフファ（大神）

とにかく臭かったのね…笑

14文字！

20文字!!

方言名が多い＝それだけ人々に利用されてきた

クロトン

常緑低木。形や色が多様な葉が特徴。ヒヌカンや仏壇に供えたりするため、家の敷地に植栽される。

ウスガマギー

ヒマ

１年生草本。トゲのある果実が特徴。種子は有毒だがヒマシ油がとれる。種子を葉の上で転がして遊んだ。

モクモー

モクマオウ

常緑高木。主に燃料として使用。薪はマツよりも高価だった。なまり節を作るときにも使用する。

ショージギー

ソウシジュ

常緑高木。初夏に黄色い花が球状に咲く。葉は退化し、葉柄が平たくなって葉のように見える。畑の防風林や緑肥として植えられる。

ニーニヴギー

ギンネム

常緑小高木。戦後、米軍が焼け野原に飛行機で種をまいた。家畜は食べるが、鮮度が悪いと毛が抜けるのであまり使用しない。

オウギバショウ

常緑高木。葉の間にたまった水を旅人が飲んだと言われ、旅人の木とも呼ばれる。種が鮮やかな青い繊維で包まれている。

ムツヴサ

シロノ センダングサ

１年生草本。若葉は和え物、汁物に入れて食べた。痛風に効く薬としても使った。お茶としても利用される。

歌や民話と植物

平安名のマムヤ

ニフゥニイ

モロコシソウ

多年生草本。石灰岩地や林内に生える。蒸すと独特の甘い香りを発し、防虫剤や香りづけに使われた。

昔平安名というところにニフゥニイの香りのする、マムヤという絶世の美女がいました。その噂を聞きつけて会いに来た野城按司と恋に落ちますが、按司にはすでに妻子がいました。最初は妻子と別れると言っていたのに、結局は「いい香りのするお前より、子どものうんちやおしっこの臭いのする妻のほうがよい」と言い放ちました。絶望したマムヤは平安名崎の崖の上から身を投げてしまいました。娘を心配した母がいくら探しても見つけられず、ただ崖に着物がはためくだけでした。

参考：『城辺町史第六巻歌謡編』/ 歌 上田長福(2000)

マータの由来

昔、みすぼらしい姿の片足が不自由な老人が、お金持ちの家をたずね、一晩泊めて欲しいと言うと、「乞食を泊めるわけにいかない」と断られました。しかたなく隣の貧しい家を尋ねると、「こんな粗末な家でよければ」と快く迎え入れてくれました。実は神様のお使いであった老人は、お礼にと「あなたが畑に作物を植えたあと、マータを結っておきなさい」と教えました。その家の主人が言われた通りにすると、毎年神様がその畑にユー(豊作)を与えるようになりました。それからというもの、村人たちもマータを結うようになりました。

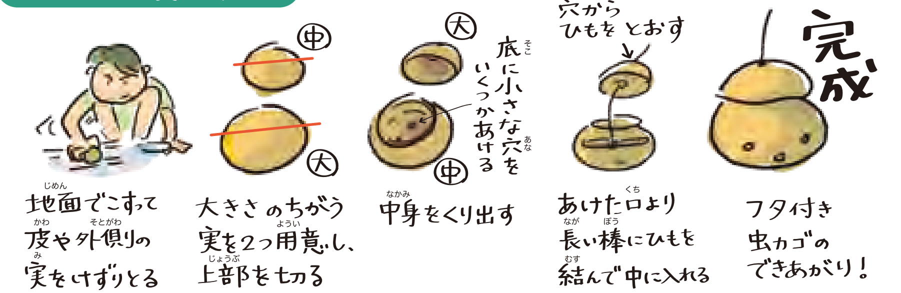
参考：『城辺町史第五巻民話編』/ 語り砂川恵辰(1990)

遊びと植物

あそんでみよう!

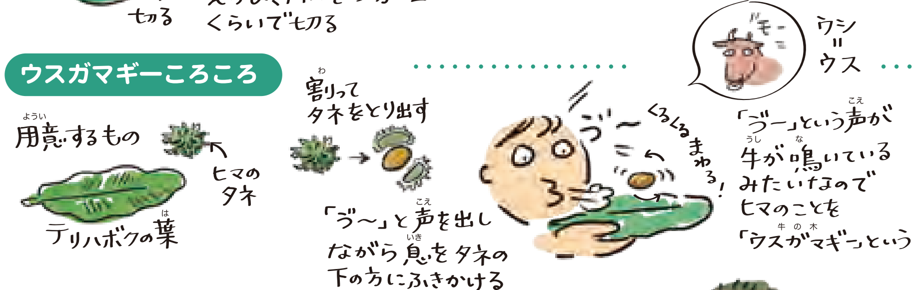
ハイビスカスであそぼう！

テリハボクの実の虫カゴ



フクギのぞうり

ウスガマギーころころ



アリマウマノスズクサで…

文化財の体系図

凡例
- 文化財の種類
- 特に価値の高いもの
- 特に重要なもの
- 重要なもの
- 特に必要のあるもの
- 保存と活用が特に必要なもの
- 保存できるよう考える必要のあるもの

文化財

有形文化財
建造物
美術工芸品　工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの
- 指定 → 重要文化財 → 指定 → 国宝（世界から見ても価値が高い、国の宝）
- 登録 → 登録有形文化財

無形文化財
演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの
- 指定 → 重要無形文化財
- 登録 → 登録無形文化財
- 選択 → 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財

民俗文化財
有形民俗文化財　無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財　衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術
- 指定 → 重要有形民俗文化財
- 指定 → 重要無形民俗文化財
- 登録 → 登録有形民俗文化財
- 登録 → 登録無形民俗文化財
- 選択 → 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

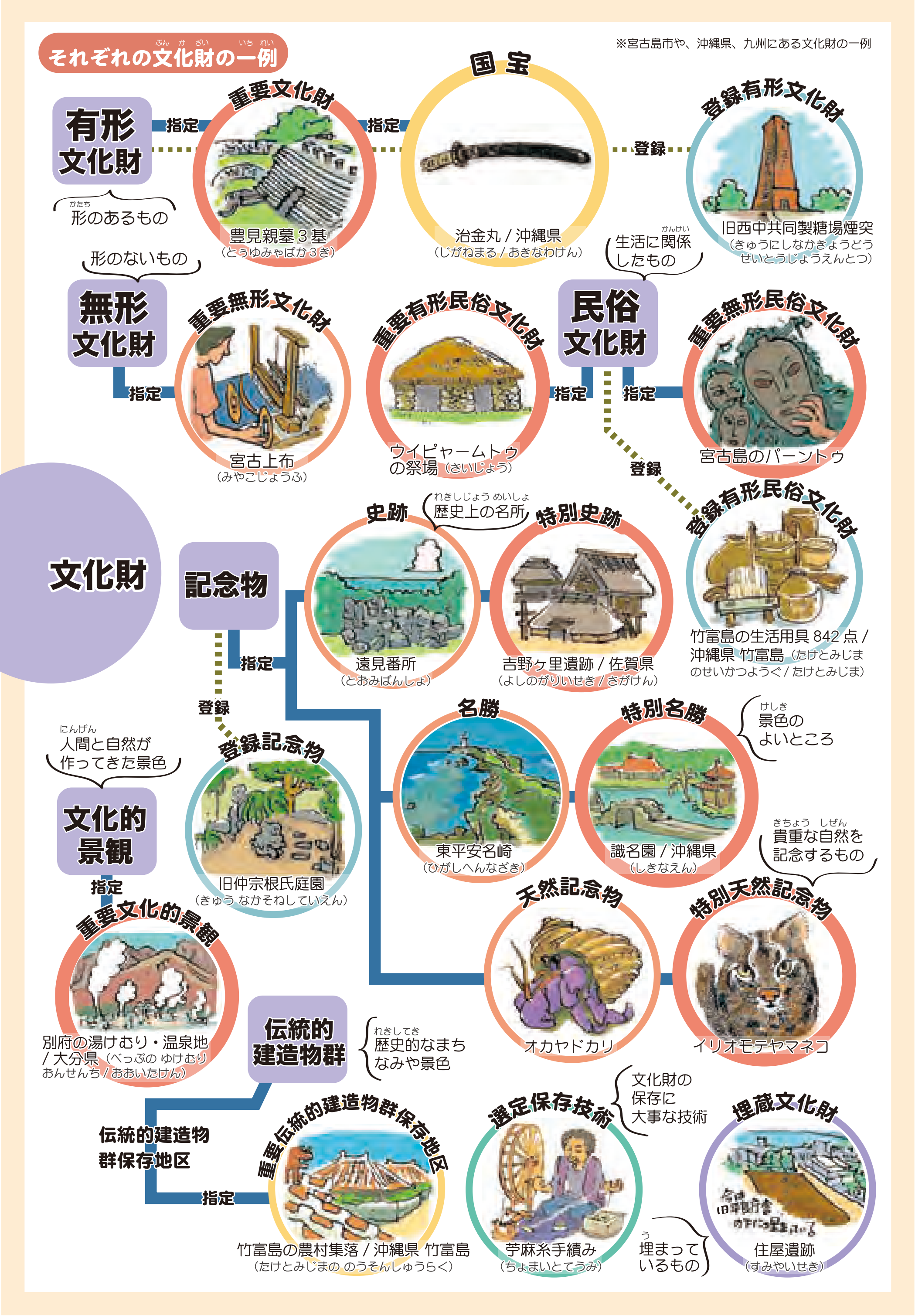
記念物
遺跡　貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地　庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物、植物、地質鉱物
- 指定 → 史跡 → 指定 → 特別史跡
- 指定 → 名勝 → 指定 → 特別名勝
- 指定 → 天然記念物 → 指定 → 特別天然記念物
- 登録 → 登録記念物

文化的景観
地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地　棚田、里山、用水路など
- 都道府県または市町村の申し出に基づいて選定 → 重要文化的景観

伝統的建造物群
宿場町、城下町、農漁村など
- 市町村が決定 → 伝統的建造物群保存地区 → 選定 → 重要伝統的建造物群保存地区

埋蔵文化財
土地に埋蔵されている文化財

文化財の保存技術 → 選定 → 選定保存技術
文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など



私たちの文化財です
大切にしましょう

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。

昔のことや、自然のこと、いろんな人の考えなど、
たくさんのことを教えてくれる大切なものです。

この冊子は非売品です。NOT FOR SALE

写真提供(敬称略)
藤田喜久(沖縄県立大学全学教育センター教授)ミヤコチスジノリ
保坂健太郎(国立科学博物館 植物研究部)トキイロヒラタケ/チチアワタケ
三輪大介(ヤラブの木 副代表)アダン_バスとツガキ
山口富美夫(広島大学大学院統合生命科学研究科)ミヤコジマネジクチゴケ
横田昌嗣(琉球大学名誉教授)イシガキカラスウリ/ケナシハテルマカズラ/サキシマエノキ/タイワンチトセカズラ/ホソバフジボグサ/ミツバコウギ/ミヤココケリンドウ/ミヤコジマソウ/ミヤコジマハナワラビ
佐藤宣子(宮古島市教育委員会文化財係)アダン_縄/エノキフジ/オオバハマアサガオ/オキナワソケイ/オキナワテイカカズラ/クロイゲ/ケミズキンバイ/サキヒマハマボウ/サキシマフヨウ/シマソケイ/シロツブ/シロバナミヤコグサ/スナハマスゲ/ソウシジュ/トゲイボタ/ハテルマギリ/ハマニガナ/ヒルギダマシ/マングローブ 水路 干潮時/マングローブ 水路 満潮時/ミヤコグサ/ミヤコジシバリ/ミヤコジマツヅラフジ/ミヤコジマツルマメ/ミヤコジマニシキソウ/ミヤコジマハマアカザ/ミヤコハママンネングサ/モロコシソウ/リュウキュウガシワ/リュウキュウコマツナギ/リュウキュウチシャノキ

宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道(自然・植物編)**

発行	初版 2024(令和６)年 ３月
	改訂 2025(令和７)年10月
編集・発行	宮古島市教育委員会
	〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
	TEL 0980-72-3764　FAX 0980-73-1976
イラスト・デザイン	山田　光